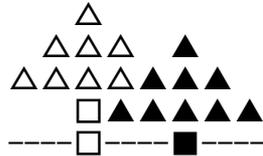


2008/10/2

北海道立林業試験場メールマガジン



『北の森の達人』

Vol.17 第17号

読者の皆様へ

このところ朝晩はめっきり冷え込むようになり、秋が来たことを実感しています。今年も餌となる木の実などが少ないのか、林業試験場の周りでもクマやキツネなどが頻りに目撃されているようです。また、野ネズミも多く発生していますので、野ネズミの被害にご注意ください。

北海道立林業試験場メールマガジン『北の森の達人』は、北海道の森林・林業・身近なみどりに関わる情報を皆様に直接お届けするメールマガジンです。



目次

- 刊行物ダイジェスト 平成19年度 北海道林業試験場年報
光珠内季報 No.152
グリーントピックス No.39
- ホームページの紹介 エゾヤチネズミ発生情報
- 森とみどりのQ & Aで解決! 加害の特徴
- 今日の達人のささやき 森林保護部鳥獣科長 明石 信廣



■刊行物ダイジェスト1 平成19年度 北海道林業試験場年報 (2008.9発行)

Web版平成19年度北海道林業試験場年報を発行しました。

- ◇平成19年度試験研究課題
- ◇平成19年度試験研究の概要
 - ◆企画指導部 (3課題) ◆林業経営部 (10課題) ◆森林環境部 (7課題)
 - ◆森林保護部 (6課題) ◆緑化樹センター (2課題) ◆支場 (5課題)
 - ◆外部との共同研究 (5課題)
- ◇研究発表業績
- ◇技術指導並びに普及
- ◇物量の分析及び鑑定
- ◇特許・品種登録
- ◇林業専門技術員の活動実績
- ◇総務

<-刊行物詳細情報->
<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/nempo.htm>

■刊行物ダイジェスト2 光珠内季報No.152 (2008.9発行)

- ◇「北海道版カラマツ人工林収穫予測ソフト」の開発
(林業経営部 八坂通泰ほか)
人工林における成長予測は木材生産機能の強化だけでなく、二酸化炭素固定能の向上、災害に強い森づくりなどのためにも不可欠である。近年の低密度植栽や長伐期化など施業の多様化に対応するため、カラマツ人工林で様々な間伐を実施したときの成長予測ができるソフトを開発したので紹介する。
- ◇北海道の林業労働災害とヒヤリハットの実態をさぐる (2)
(普及指導員室 藤八雅幸ほか)
北海道で素材生産業に従事されている労働者の方々に、過去に起きたヒヤリハット経験についてアンケート調査を行った。その結果、過去3年間に過半数の方がヒヤリハットの経験をし、さらに経験者の90%が、3年間に2回以上ヒヤリハットを繰り返していることがわかった。また、これを事業体でみると、1件以上発生した事業体は92%で、ほとんどの事業体において発生していることがわかった。
- ◇空知地方におけるエゾシカの生息状況と森林への影響
(森林保護部 明石信廣ほか)
多雪地が多くを占める空知地方でもエゾシカが増加している。エゾシカによる林業被害を回避し、天然林を維持するためには、ライトセンサスで10頭/10km以下が目安となり、嗜好性の高い樹種の樹皮剥ぎや、トドマツ人工林の角こすりなどの「エゾシカの増加のサイン」に注意を払う必要がある。
- ◇組織培養を活用したナナカマドの枝物産地の形成ー花き生産者と取り組んだ10年の歩みー

(緑化樹センター 錦織正智)

1998年から3年間、花き生産者らとナナカマドの枝物(花材)の産地形成に取り組んだ。当時、山林に自生する木から収穫することが一般的であったナナカマドの枝物の生産形態を見直して、①生産者自らが商品価値の高い枝を産する個体の選抜をおこない、②組織培養でクローン増殖し、③クローンを農地で栽培して高品質の枝物を生産する栽培収穫型の産地の形成を実現した。

<-刊行物詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/kiho/kihoh20.htm>

■刊行物ダイジェスト3・・・グリーントピックスNo.39(2008.9発行)

◇カラマツ人工林の収穫予測ソフトを開発

北海道のカラマツ人工林において、様々な間伐を実施したときの収穫予測が実施できるソフト(北海道版カラマツ人工林収穫予測ソフト)を開発しました。ファイルは林業試験場ホームページ“カラマツ収穫予測”でダウンロードできます。詳しい使用法は、同ホームページに“使用の手引き”を載せていますので、ご活用ください。

◇多雪地におけるエゾシカの冬の過ごし方

エゾシカの越冬地となっている空知支庁管内三笠市の鳥獣保護区において積雪期に足跡の分布状況を調査したところ、1月下旬~2月下旬の厳冬期にはトドマツ人工林と他の林分との境界付近の利用頻度が高いことがわかりました。

◇生分解性ポット苗を用いた吹付け斜面への樹木の導入

治山事業施工地の斜面で行われる吹付けでは、施工初期の土壌浸食防止のために外国産牧草類が用いられます。しかし、治山事業は山地で行われることが多いため、施工地に牧草類が繁茂すると、周辺の山林と景観上の違和感があります。そこで、吹付け施工斜面を樹木により緑化するため、ポット苗を植栽して、北海道に自生する樹種の導入を試みました。

◇サミットで記念植樹されたクリーンラーチ

林業試験場と林産試験場が開発したグイマツ雑種F1の新品種「クリーンラーチ」が、今年7月に開催された北海道洞爺湖サミットにおいて、G8首脳と夫人により記念植樹されました。

クリーンラーチの普及を図るため、現在、苗木の生産に着手しており、平成23需給年度(H22年秋、H23年春)には一般の造林を開始する予定です。

<-刊行物詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/topics/topicsh16.htm>

■ホームページの紹介・・・エゾヤチネズミ発生情報

【野ネズミ被害に注意】

2008年8月のエゾヤチネズミ捕獲数は、一般民有林、道有林ともに2007年よりも増加し、全道的に1998年以来の高い水準となっています。

2008年秋季のネズミ数は、昨年と比べ増加すると予想されます。渡島南部、渡島北部、空知東部、上川北部、網走東部、根室、釧路東部では、秋季のネズミ数が1999年以降で最も多い水準になると予想されます。

造林地での被害発生が懸念されますので、エゾヤチネズミ捕獲数の多い地域、過去に野ネズミ被害の発生している造林地やその周辺では、積極的な防除に努めるようにしてください。

<-エゾヤチネズミ発生情報詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/nezumi.htm>

■森とみどりのQ&Aで解決!・・・加害の特徴

【Q】加害動物判定のために、ネズミとウサギとエゾシカの加害の特徴を知りたい。

【A】

ネズミ・・・枝葉、樹皮、根を加害します。枝葉の場合はウサギの加害に似ますが、いずれの場合もネズミは小さな前歯でかじるため、幅1mmほどの歯の跡が残ります。

ネズミによる樹皮の加害は主に積雪中に発生するため、加害部は雪に埋もれる高さまでの範囲です。植え付け直後の樹木では、苗木全体が加害され割り箸のようになってしまうこともあります。ナラ類の苗木では根がかじられます。

ウサギ・・・枝葉や樹皮を加害します。ウサギの前歯は大きいため、枝葉の加害部は刃物で切ったような切り口をしています。樹皮の加害された部分には、ネズミより大きな幅3mmほどの歯の跡が残ります。

シカ・・・枝葉、樹皮を加害します。シカは上の前歯がないため、枝葉被害の切り口はきれいな切り口にならず樹皮繊維が残ります。樹皮の加害は、シカがかじった食害と

雄が角をこすりつけた角こすりで特徴が異なります。食害では、加害部に下の前歯の歯の跡が筋状に残ります。角こすりでは、露出した木質部は滑らかになっています。

<森とみどりのQ & A詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/q&a/search.asp>

■今日の達人のささやき . . . 森林保護部鳥獣科長 明石 信廣

エゾシカは、今や北海道のほとんどのところに生息しています。食物が乏しい環境にも柔軟に適応できる能力があり、日本海側の雪の多いところでも何とか生息できる場所を見つけ、樹木の枝や樹皮を食べて越冬しています。洞爺湖中島では、食べられる樹木や草本がなくなったシカが、落ち葉を食べて生きています。特に広葉樹はもともとエゾシカの好む餌ですから、植えた後に食べられるのを防ぐのは難しく、広葉樹を植栽する場合には、エゾシカの影響を考慮して樹種を選択することが重要です。天然林などの広葉樹の食痕やエゾシカの足跡の観察によって、エゾシカの影響の度合いを知ることができます。影響が顕著な場所には、広葉樹よりもエゾシカの嗜好性の低い針葉樹を植栽することも考える必要があります。

////////////////////////////////////

■発行・編集

北海道立林業試験場
〒079-0198 北海道美唄市光珠内町東山

■問い合わせ

企画指導部森林情報室情報管理科
電子メール mmgadmin@hfri.pref.hokkaido.jp

■記事の取り扱い

北海道立林業試験場メールマガジンに掲載された記事を転載することは
ご遠慮ください。

////////////////////////////////////